

【研修報告】

第2回健康スポーツ科学科学生短期海外研修 (ハワイ大学マノア校)を終えて

禿 隆一*¹ 菅嶋康浩*¹

1. はじめに

2019年9月に初めて実施された、朝日大学保健医療学部健康スポーツ科学科(本学)とハワイ大学マノア校教育学部 Department of Kinesiology and Rehabilitation Science(以下、KRS)との学生短期研修プログラムは、初回ということもあり様々なサポートを受け、10月の海外報告会まで盛況の中で成功を収める事ができた¹⁾。その後、新型コロナウイルスの世界的大流行により、海外研修が2年間停止を余儀なくされたが、2022年度になりようやく再開することとなり、2022年9月3日(土)から12日(月)までの8泊10日間の日程で第2回学生短期海外研修(以下、本研修)が行われた。

本研修の応募は2022年4月に開始されたが、2019年度の初回短期海外研修(以下、前研修)からは世界中の情勢も変わり、Withコロナに向けた生活を余儀なくされ、本研修でも「海外研修参加には3回以上の新型コロナワクチン接種(2回の接種と1回のブースター摂取)」を必須条件に加えたこと、また新型コロナウイルスも終息には向かない現状の中とあって、10名の定員に対し8名の応募であった。その後、面接審査を経て4年生3名、3年生4名が参加を予定していたが、残念ながら1名は渡航直前に新型コロナウイルスに感染し、参加不可となり男子のみの6名の参加となった。参加した6名の学生に関して、前研修同様にこの研修を機にパスポートを取得するなど海外経験の少ない学生であった。しかしながら参加を希望した4年生に至っては、参加を予定していた2、3年生の時期に中止となった経緯があったこともあり、本学の語学サポートシステムでもある English Language Salon(ELS)への積極的な参加など、参加に非常に意欲を示していた。なお1名の4年生に関して、面接時点では意欲を見せていたが、4年生という立場から卒業後の進路についての懸念事項があり辞退となった。

海外経験の少ない学生が多数であることや前研修での経験を踏まえ、本研修までに今回も6度の事前ガイダンスと語学能力テストを実施することとなった。事前ガイダンスおよび語学能力テストの詳細は表1に示した(表1)。3年間の海外情勢の変化は非常に激しく、事前ガイダンスは参加学生だけでなく引率する教員にとっても非常に有意義な時間となった。事前ガイダンスでは前研修に引き続き、ハワイ大学准教授のOba先生を朝日大学に招聘したオリエンテーションが行われ、ハワイ大学の情報提供や学生達が本研修でどのような勉強をしたいかなどの質疑がおこなわれ、このオリエンテーションでの内容が本研修にも非常に反映されていた。第3回のネイティブスピーカーである Top Athlete 学生との英会話の実践では、1対1でコミュニケーションをとる時間がとれ、しっかりとした準備が可能となった(図1)。また、前研修に参加した卒業生とのオリエンテーションでは単なる海外旅行ではなく、研修として参加した経験を本研修に参加する学生に伝えることができたと考える。前研修との違いとして、本研修参加にあたっての英語能力の変化を見る上で、これまではコミュニケーション能力のみに焦点を当てていたが、研修にあたっての準備をどれだけできているのか、語学の総合的な変化を見る上で(公財)日本英語検定協会の英検S-CBTを実施することとなった。研修前日は、学内にある医科歯科医療センターにて、事前PCR検査を実施し、参加する全員が陰性であることを確認し万全の状態で行うこととなった。

受付日 2022.11.30

*1 朝日大学保健医療学部健康スポーツ科学科

表1：年間海外研修前後スケジュール

| ガイダンス等 | 日付 | 内容 |
|-------------|----------|--------------------------------|
| 第1回事前研修 | 6月10日 | 参加者自己紹介・手続き |
| 第2回事前研修 | 6月24日 | Oba先生を招いてのオリエンテーション |
| 英語テスト① | 7月7日 | 学内での英語コミュニケーションテスト |
| 第3回事前研修 | 7月15日 | Top Athlete Program 学生と英会話の実践 |
| 英語テスト② | 7月～8月 | 英検 S-CBT (外部試験) による研修前語学テスト |
| 第4回事前研修 | 8月4日 | 前研修参加学生 (卒業生) とのオリエンテーション |
| 第5回事前研修 | 8月23日 | 旅行会社による説明会および研修中の注意事項等諸連絡 |
| 第6回事前研修 | 9月2日 | 旅行会社による最終説明、研修直前 PCR 検査 |
| 本研修 | 9月3日～16日 | ハワイ大学マノア校にて KRS プログラムに参加 |
| 英語テスト③ | 10月 | 英検 S-CBT (外部) 及び学内コミュニケーションテスト |
| クロージングセレモニー | 10月5日 | オンライン (Zoom) による学生スピーチ含む閉会式 |
| 研修報告会 | 10月26日 | 学内の教職員、学生に向けた報告会 |

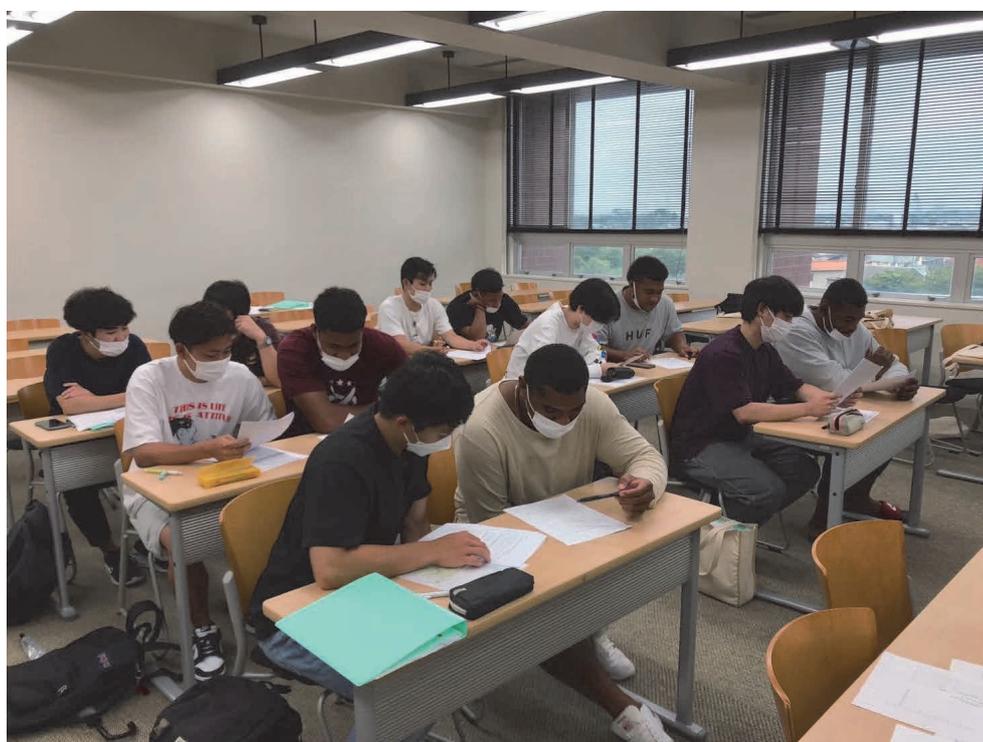


図1：事前ガイダンスの様子

2. 研修プログラム①

研修当日、前研修ではセントレアーハワイ間に直通便が毎日就航していたが、新型コロナの影響により、週に2便と減便されたため、成田国際空港を経由してのハワイ移動となった。空港到着後、Oba先生及びハワイ大学職員であるMs. Da Haul (Student Adviser) に迎えてもらい、宿泊先の大学校内にあるリンカーンホールへ向かった。部屋のチェックインにはまだ少し時間があるため、最寄りのスーパーマーケットへ買い出しに向かった。参加した学生は、初めての海外スーパーマーケットでの店員との本格的な英会話を無事に行うことができた。

9月2日土曜日より、研修が始まったが、本研修のスケジュールは図2で示した(図2)。本年度は前研修と違い、事前ガイダンスでのOba先生との質疑の中で、競技指導者やトレーナーなど、スポーツに関わ

りを持ちたい学生が多くいたことから、Sports Athletics Department（以下、体育局）所属部活動の練習や試合、トレーナーへのインタビューなど、ハワイ大学マノア校の体育局やスポーツに関する研修プログラムが多く組まれていた。到着した土曜日の夕方から、早速アメリカンフットボールのホームゲーム観戦があった。移動の疲れや時差ボケのある中、参加学生達は試合が行われているフィールド周りのハワイ大学グッズや飲食のショッピングを楽しんだ。またルールもあまり分からない状態であったが、学生達は非常に興奮した様子で、試合や観戦に来ていた観客の雰囲気と共に試合を楽しんでいた（図3）。ハワイ大学でのスポーツ観戦などのイベントでは、3年前の前研修と違い、カバンなどの持ち込みが禁止となり、外が透明なクリアバックのみが持ち込みが可能になっていた（図4）。これまでであれば、入口警備員がカバンの中身をチェックして入場するイメージであったが、コロナ禍により非接触の対応に変化をしていた。透明のバックであれば接触などをせず中を確認できることから、日本でも導入されても良いのではないかと感じた。

ハワイ大学に到着した9月3日（土）から9月5日（月）のアメリカ国民の祝日である「Labor Day」であった3日間は、フットボールの試合はあったものの、KRS研修プログラムは6日（火）からのスタートであったため、土日の2日間は学外での研修、そして、月曜日はOba先生による特別事前講義の実施と、姉妹大学である「明海大学の感謝の集い」と呼ばれる、明海大学海外研修のクロージングセレモニーに参加した。

初日の買い出しと昼食を問題なく過ごした学生達を引率しながら、日曜日にはハワイ州コンベンションセンターで催された『Okinawan Festival』に参加し、沖縄からの移民の方々や現地のハワイの方々から沖縄とハワイのつながりを学んだ（図5）。移動には公共交通機関であるバスを利用し、コンベンションセンター近くのショッピングモールでの自由行動をとり、毎日就寝前に実施するミーティングで感想等を述べ合い情報を提供しあった（図6）。ハワイ文化に触れ、日本とアメリカの市場の違いを学ぶ良い機会となった。9月5日（月）の特別事前講義は、NCAAに所属するハワイ大学の各運動部のレベル、運動部を統括する体育局の組織構造と大学における位置づけ、そこに所属するアスリート学生の実情などについて簡潔に説明を受け（図7）、その後、土曜日にも試合観戦した競技場など大学スポーツ施設を中心に大学キャンパスを視察し、その規模と設備に驚かされた（図8）。

9月6日（火）の研修4日目にして、オープニングセレモニーからいよいよ本格的にKRSプログラムが開始された。前途のように研修プログラムは大学での火曜日から金曜日までの4日間であったが、前研修と比較しても非常に内容の濃いスケジュールとなった。オープニングセレモニーでは、KRS Murata 学部長、Stickley 学科長、Oba先生にご参加いただき、本学大友学長及び宮田理事長にもご見学いただく中、学生は簡単な自己紹介をし、締めくくりには記念撮影をおこなった（図9）。初日は見学が多かったプログラムであったが、日が経つにつれ、早朝のアメリカンフットボールのアスレチックトレーナーへのインタビュー（図10）や、実技や演習授業の参加（図11、12、13）など、参加学生も英語で話す機会が多くなり、学生達も初めは戸惑っていたが、事前にしっかり準備する事ができたこともあり、積極的に参加する姿を見ることができた。プログラムの途中、Ms. Daのご厚意で、当初は予定をされていなかった、昨シーズンに全米チャンピオンとなった体育局男子バレーボール部や男子バスケットボール部の練習見学が追加され、プログラムに予定されていた女子バレー部練習見学を含め、体育会の練習を何度も見学することができた。そのトップレベルの練習は選手達だけでなく指導者も非常に集中して、活気に溢れており、学生達が真剣に見学していたことが非常に印象深かった。授業においても、前研修に引き続き、参加させていただいた授業の担当教員には3年ぶりにもかかわらず非常に親切丁寧に対応いただき、学生達も満足のいく授業参加であった。また、本研修は新型コロナ禍の影響もあり、キャンパス内ではアルコール消毒器（図14）や、マスク着用の啓発ポスター（図15）などが設置されており、アスレチックトレーナー棟では、屋外でのテーピング（図16）や入退室のICカードチェック（図17）など海外でも衛生管理がなされていた。日本の衛生管理の徹底ぶりとは違う認識ではあったが、キャンパスでも教室でのマスク着用が推奨されており、全員ではないが屋外でマスクを着用する学生の姿も見られた。

| | 9/3/2022 Sat | 9/4/2022 Sun | 9/5/2022 Mon | 9/6/2022 Tue | 9/7/2022 Wed | 9/8/2022 Thu | 9/9/2022 Fri | 9/10/2022 Sat | 9/11/2022 Sun | 9/15/2022 Thu |
|------|---|--|---|--|---|---|--|---|---|--|
| AM | Arrival: JAL784 0920am Pick-up Dr. Oba and Da | | | 10a オープニングセレモニー & 自己紹介 ID発行 @ KRS Conference Room | 530am アメフト練習見学 630-650 Q&A by Brian Wong (Football AT) 830a-920a 実技参加 KRS181 Sport Proficiency I: Dr. J @ Soccer Field 940a-1110a 講義聴講及び演習参加 KRS271 Prof Bsd Assmnt in HPE: Dr. J @ Human Performance Lab | 900-1000a 講義聴講 KRS354 Exercise and Sports Physiology: Dr. Pauly Yamada @ Lecture Hall 10a-1030a Short Q&A by Tanner (Men's BB SCC) and Trevor (Women's BB SCC) @ Lifting Gym 1030-1200p 講義聴講 LRS354L Exercise and Sports Physiology: Traveor Shor @ Human Performance Lab | 745a Anueue School - Hawaii Immersion School Observation Experience: Mr. Lapule Schultz (AD) CANCELED | キャンパス外活動 | 先発隊 Depart JAL073: 1245p (Oba, Haul Van: Lincoln Hall Check out 9:30 am - HNL) | 後発隊 Depart JAL793: 1415p (Kozue: Lincoln Hall Check out 11:00 am - HNL) |
| | 生活品等の買い出し @ Manoa Market Place | Field Trip 1: オキナワフェスティバル @ ホノルルコンベンションセンター | 10-1230p 事前講義 by Dr. Yukiya Oba @ KRS B108 / キャンパスツアー施設見学 | 11-1200p 講義: ハワイ大学における留学生の現状 by Karen Mikeli (Director, ISS) | 1110a-1220a 実技参加 KRS152 Weight Training: Ryan Ishihara. Followed by Q&A by S&C Staff | 1230-200p KRS学生・教職員とランチミーティング | Closing Ceremony Dean Murata CANCELED | | | |
| PM | 宿泊先チェックイン | Field Trip 2: スポーツショップ市場調査 @ アラモアナショッピングセンター / アラモアナビーチ探索・明日のルート確認 | 昼食 | ウォーリアークレクレエーションセンター説明・見学 @ WRC | 200p-300p 実技参加 KRS270 Intro to Physical Education: Dr. Erin Centelb @ Kkum Gym 315p-4p 男子バレーボール練習見学 | 1500p-1600p 女子バレーボール練習見学 | 3p Career Opportunity - UH Athletics Coaches, Front Office, Brent Inouye (Corporate Relations Director), Cindy Rote (Director of Student-Athlete Development) CANCELED | 400p-600p 参加 スポーツフェスティバル 「Waikane on the Rise - Field Day」 | | |
| | 0600P アメリカンフットボール試合観戦 vs. Wetem Kentucky @ TC Ching Stadium | スーパーマーケットまでの歩行ルート確認・買い出し 明日・明後日スピーチ練習 8p Meeting @ LH | 0600-0845PM 朝日大学・明海大学感謝の夕べ @ Prince Waikiki | WRC Activity | WRC Activity | WRC Activity | WRC Activity | 700p Women's Volleyball Game vs USC @ Stan Sheriff Arena CANCELED | 700p 女子バレーボール試合観戦 USC @ Stan Sheriff Arena | |
| Note | | | | 8p Meeting @ LH | | | | | | |

図2: 第2回短期海外研修スケジュール



図3：初日アメリカンフットボール試合観戦



図4：持ち込み禁止の看板および、持ち込み可能なクリアバック



図5：Okinawan Festival 参加の様子



図6：毎日の就寝前ミーティングの様子

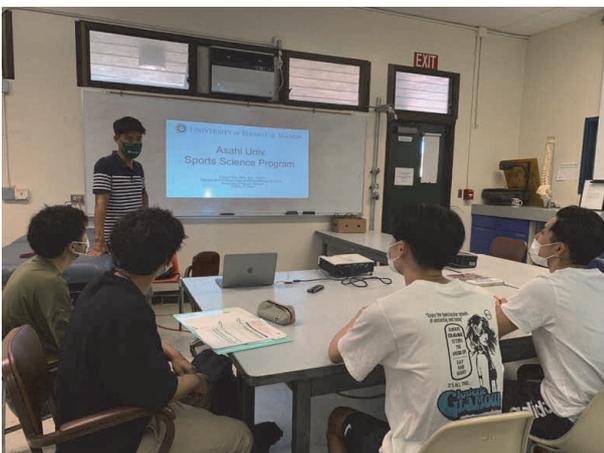


図7：特別事前講義の様子



図8：施設見学（TC Ching Stadium）



図9：オープニングセレモニー集合写真



図10：インタビュー風景 (Q & A Session)



図11：KRS181 実技授業風景



図12：KRS271 授業参加者による記念撮影



図13：KRS354L 講義 (演習) 参加風景



図14：キャンパス内のアルコール消毒器

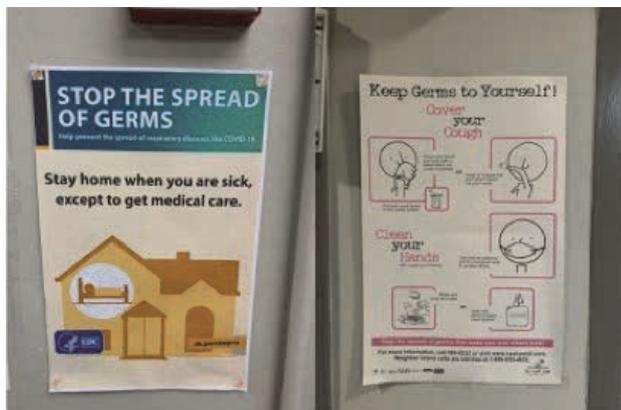


図 15：キャンパス内、衛生管理啓発ポスター



図 16：屋外に設置されたテーピング台



図 17：トレーナールームへの入退室管理

3. 本研修中の新型コロナウイルス感染について

研修6日目（木）の午前まではプログラムも滞りなく進んできたが、木曜日の午後から1名体調不良の学生が発生し、翌金曜日早朝に全員の抗原検査を実施し、その結果2名の陽性者が確認され、金曜日のプログラムを全てキャンセルし各自宿泊施設での自主隔離をおこなう残念な形となった。結果的に、研修最終日にも新たに抗原検査キットによる1名の陽性が確認され、直ちに現地の病院を受診し、PCR検査を受けての療養となった。現地で陽性となった3名の参加者は航空チケットを変更し、現地医師の診断後に許可を得て後日（9月16日）の帰国となった。また、日程通り帰国した参加者においても、日本帰国後3名の陽性者が確認され、帰国後の自宅待機やホテル療養を余儀なくされた。本研修参加にあたってワクチンを3回接種していたことが要因かは判断できないが、陽性となった6名とも、比較的軽症であったことは何よりであったと考える。

新型コロナウイルスに対するアメリカ合衆国の対応は、日本とは異なり、発熱後に体調不良者が抗原検査キットを入手して各自検査を実施し、陽性であれば発症日をゼロ日として5日間隔離、6日後解除及び5

日間のマスク着用と自主的に対処していた。本研修も、発熱等の体調不良時に大学宿泊施設と Oba 先生へ連絡を取り、いち早く抗原検査キットを入手し、スムーズに自主検査を行う事ができた。また、これまでの多くの訪問者に陽性があった経験からか、宿泊場所であるハワイ大学マノア校の対応、及び現地医療機関でも対応はスムーズであった。ハワイ大学マノア校では、キャンパス内のマスク着用を推奨しており、あちこちにポスターなどが見受けられたが、感染実態の把握に違いがあり、どこにでもウィルスがいるにも関わらず、そもそもマスクを好まないアメリカで屋外ではほとんどマスクしていない状況にあり、ウィルス取り扱いの違いのギャップに戸惑いを感じた。引率を含めた参加者は室内外問わず、マスク着用を徹底していたが着用しなくても安全なのかと錯覚してしまうほど、人々はほとんど気にしていなかったのが現状であった。しかし、海外研修でコロナ感染が実際に起こってみて、事情の分からない中での対応は極めて困難であり、現地での協力体制無くしては成立しないことを痛感した。今回は Oba 先生始め、終始我々をサポートしてくれた Ms. Da、そして現地事情に詳しく危機対応がご専門の明海大学神末教授のご協力無くしては研修を終えることはできなかった。

4. 研修プログラム②及び事後研修

研修7日目(金) KRS プログラム最終日は、ハワイの文化に触れる学校への訪問や、参加者が待ち望んでいた女子バレーボール部の公式戦観戦などを予定していただけに、非常に悔しい気持ちがあったが、Oba 先生のご配慮により、本来は盛大に実施する予定であったクロージングセレモニーの代わりに、自主待機していた宿泊先のリンカーンホール・ロビーにて修了書の授与式を実施いただいた(図18)。クロージングセレモニーで予定していた学生達の英語スピーチも直接披露する形ではなくなり残念ではあったが、修了書を手にした参加者は少し安堵した表情であった。翌日も同様に陰性であった参加者は抗原検査を自主的に実施し、陰性であった参加者は1名の濃厚接触のホテル待機者を除き、帰国直前の1日を満喫することとなった。午前中、Oba 先生に案内をいただき、大学裏にあるタンタロスの丘、ワイキキビーチ付近の海岸(図19)やダイヤモンドヘッド(図20)などハワイのアクティビティーで有名な箇所の見学を実施した。これまでは大学の研修でもあったためハワイの自然に触れる事がなかったが、タンタロスの丘では虹やスコールなどを見る事ができ、ハワイを堪能できた。またその後、神末教授にご案内いただき、アメリカのスポーツシューズ店やハット専門店などのスポーツアパレルショップの市場調査を実施した。日本とは異なる展示方法や、またどのようなスポーツ商品が現地で売買されているのかを体験できた貴重な経験であった。

午後には体育局の主に女子運動部主催による、「ハワイ大学マノア校タイトル・ナイン制定50周年記念」のスポーツフェスティバルに参加した(図21)。タイトル・ナインとはアメリカ合衆国における公的高等教育機関における男女の機会均等を定めた教育改正法第9編のことである。これによってアメリカでの大学スポーツ、特にNCAAでは男女が平等に勉強やスポーツを受ける機会を遵守するよう求められており、ハワイ大学マノア校も1972年から女子に対して平等な機会を提供している。フェスティバルの参加者の多くは子供であったが、この歴史的なイベントにおいてスポーツは目に見える形であることから役割は非常に高く、そういったイベントに参加できたことはとても有意義であった。またフェスティバル終了後は、女子バレーボール部の公式戦を観戦した(図22)。アメリカではアメリカンフットボールやバスケットボールが非常に人気のあるスポーツであるが、ハワイ州はプロスポーツがなく、大学女子バレーボール部は非常に人気のスポーツであり、試合は約1万人収容可能なアリーナで開催され、試合当日も多くの観客で埋め尽くされていた。試合はフルセットにもつれ込む非常に白熱した試合であり、最後には体育局女子バレーボール部が逆転勝利を収めたことで会場も非常に大興奮の試合であった。当日の試合は残念ながらテレビ放送はなかったが、現地での観戦以外にも、携帯電話による大学体育局専用サイトからのライブ実況と、現地ラジオ放送による実況もあり(図23)、陽性であった宿泊療養者には物足りなさはあったものの部屋の中からでも試合の熱を感じる事ができた。



図 18：修了書授与



図 19：ワイキキビーチ近辺



図 20：ダイヤモンドヘッド前集合写真



図 21：Title IX Festival in UH Manoa



図 22：女子バレーボール試合観戦

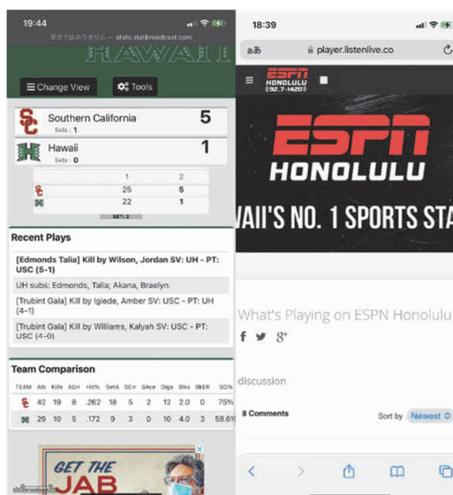


図 23：携帯電話上での試合観戦
(左：大学サイトからのスコア実況、
右：実況ネットラジオ放送)

KRS プログラム最終日に開催する事ができなかったクロージングセレモニーについて、最後にお礼のスピーチができなかった事が本研修の心残りであったが、帰国後に本学竹島学科長及びハワイ大学 Oba 先生で連絡を取り合い、約1ヶ月後の10月5日(水)に、遠隔ビデオミーティングとなったが、クロージングセレモニーを開催する事ができた(図24、25)。当日は、ハワイ大学から Murata 学部長はじめ、Oba 先生、Ms. Da にも Zoom から参加いただいた。本学からは大友学長、竹島学科長、山本副学科長、事務の皆様にもご参加いただき、本研修参加学生のスピーチを発表する場となった(図26)。スピーチ後は関係者の皆様へのお礼や本研修参加後に自身が変わった変化など、思い出話に花が咲いた。事後研修の締めくくりとして、10月26日(水)、本学科を対象とした短期海外研修報告会を実施した(図27)。本研修の参加学生は、KRS 授業・実技、大学スポーツ、ハワイでの生活などテーマごとに担当し、経験した内容を話し、参加者の質疑応答も丁寧に回答をしていた(図28)。



図 24：事後研修 クロージングセレモニー



図 25：Zoom 参加の関係者の皆様



図 26：学生スピーチの様子



図 27：報告会の様子①



図 28：報告会の様子②

5. 終わりに

3年ぶりの開催に至った本研修は、研修中の新型コロナウイルス感染などアクシデントがありながらも、参加学生にとってかけがえのない経験を得る事ができた。本研修のハワイ大学マノア校での10日間だけでなく、事前のガイダンス、語学テスト、本研修後のオンラインクロージングセレモニーを含めた事後研修、また短期海外研修報告会においても、多くの方々のご協力により実現できた研修となった。結果的に、教員2名と学生6名中、4名がコロナに感染し（合計6名）、無事に帰ることができなかったことから、大成功を取めたとはいえないが、次回の研修にも活かすことができる貴重な研修であったと考える。毎朝の体温チェックや、就寝前の日誌の確認など、健康管理には留意をしていたが、国により、コロナに対する認識と対処が大きく異なり、日本の常識でコロナ対応を行ったとしても、アメリカハワイでは通用しないことに気づかなかったこと、即ち“郷に入らば郷に従え”が十分できていなかったことは大きな反省点である。コロナ禍において、研修を遂行するためには、まずは、アメリカやハワイのコロナ事情やその対処について十分把握することが不可欠である。これに加え、引率教員の中に的確に対処できる者が含まれることが望ましいと思われる。さらに、ハワイ大学との連携、現地に精通した人材も不可欠であった。

ハワイ大学 KRS との短期海外研修プログラムは、アメリカの大学教育やアメリカとハワイの文化を学ぶ素晴らしい機会であり、大変価値があるものであり、また継続に大きな意義を感じる。そのためにも、今後は今回のコロナ対応を基に、研修プログラムを無事終了するための支援体制の確立が不可欠である。“with コロナ”と言われるが、経験値の乏しい中、コロナ禍で本研修を進めることの大変さを痛切に感じさせられた研修であった。その上で次年度以降の研修を進める上での貴重な経験となったと言えるだろう。

最後に、本研修プログラムを遂行するにあたって、素晴らしい魅力あるプログラムを企画し、丁寧に対応してくださいましたハワイ大学 KRS 准教授の Oba 先生や職員の Ms. Da、またコロナ禍での迅速かつ丁寧な対応をしてくださいました本大学客員教授で現地に滞在されている明海大学教授神末教授に心より感謝申し上げ、第2回短期海外研修のご報告とする。

参考文献

- 1) 禿 隆一, 山本英弘 (2020) 朝日大学短期海外研修（ハワイ大学マノア校）を終えて. 朝日大学保健医療学部健康スポーツ科学科紀要, 3, 65-68.